

『'87年女性調査』と『'90年女性調査』

結婚・育児・職業の意識

1987年から1990年へ

女性の意識はどう変わった？

【要約】

- ①<人の幸福は結婚にあり>とする人は減少、そもそも4分の1未満
- ②それでも<結婚は20歳代で>は70%だが、減少気味
- ③<結婚理由・子供がほしい>増加傾向で50%、
<子供の数・少ない方がよいと思わない>70%
- ④<子供が小さい時は育児に専念を>90%で増加傾向
<家事の手抜きはダメ>70%で、これは減少傾向
<帰宅は夫より早く>80%だが、これも減少傾向
- ⑤<家事と育児で一生を終えたくない>80%強で増加傾向
- ⑥仕事をするからは<管理職の仕事に魅力>30%強で増加傾向
<昇進したい>50%で、これも増加傾向

1991年8月

ポニー文化研究所

(担当 小池)

結婚・育児・職業の意識

1987年から1990年へ 女性の意識はどう変わった？

子どもが生まれぬ。

1990年に「1.57ショック」が日本列島を駆け抜け、続いてを上回る1991年にはそれを上回る「1.53ショック」が列島を震撼させました。

このままでは若年人口が先細りになり、総人口も減少する。高齢者負担は重くのしかかり、社会の活力は失われる、というわけです。

どこまで出生率は下がり続けるのか？

若い女性が結婚しない、子どもを生みたがらないからだとされますが、高校生から40歳までの出産可能な年齢の女性の、3年前から現在への意識の変化を、ポラ文化研究所が1987年と1990年に首都圏で行った「女性の意識と行動調査」で比較分析してみました。

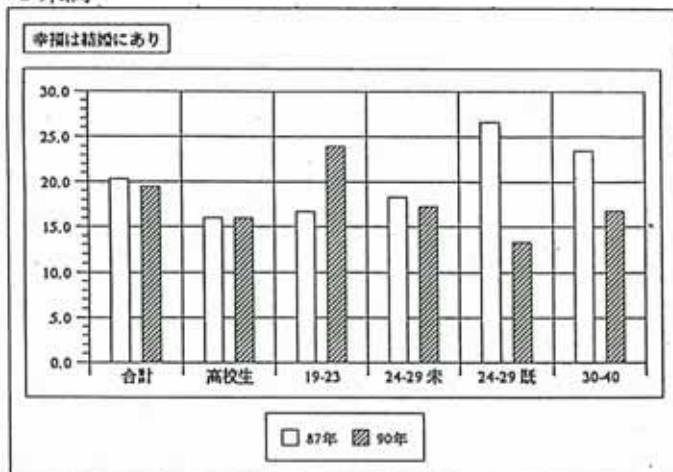
§1 <幸福は結婚にある>と思う人は4分の1未満

「人の幸福は結婚にある」と考える人は合計では横這い、ほぼ5人に一人です。

年齢別に見ると、<高校生>で横這い、<19~23歳>では16.7%から24.0%へと約5割増加しています。が、それより上の年齢層では減少傾向で、<24~29歳既婚>では、なんと26.6%から13.3%に半減しています。

<幸福は結婚にあり>と肯定する人が、そもそも4分の1に満たません。

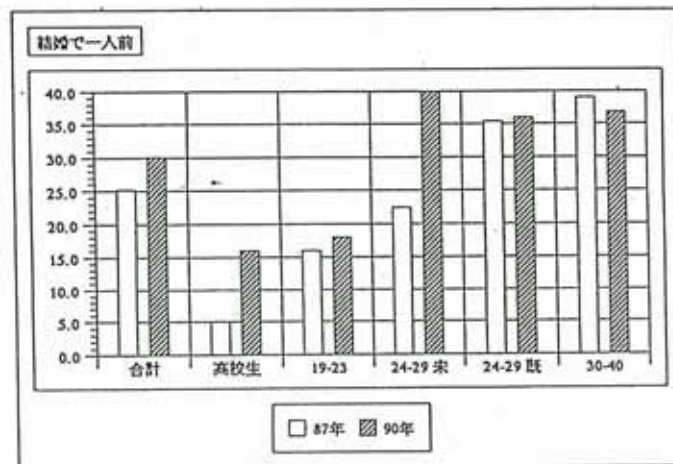
結婚で、魅力がなくなっているのですね。



§2 <結婚で一人前>と考える人も4割以下

「結婚して初めて一人前になる」と考える人は、<30~40歳>ではやや減少していますが、他の年齢グループでは増加の傾向で、<24~29歳未婚>では22.5%から40.0%へ倍増の勢いです。

とは言っても最大で40%、半数にも足りませんが…。

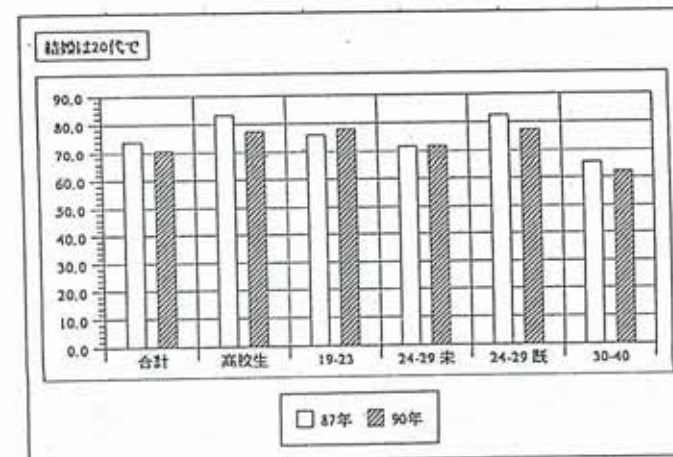


§3 <結婚するなら20代で>70%

ところが、「なるべく20代で結婚した方がよい」とする人は、合計で70%前後とたいへん高い率を占めていますが、やや減少気味です。

特に<高校生>と<24~29歳既婚>では、80%前後にも達しています。

けれどもこの3年間の傾向としては、やはり減少傾向であることは否めません。



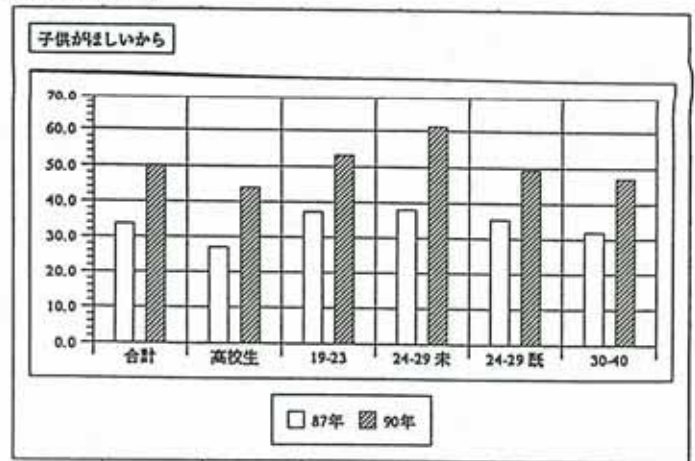
§4 <結婚理由・子どもがほしい>は増加傾向（複数回答）

女性が結婚する理由で、「子どもがほしい」という理由は顕著な増加傾向にあります。

合計では、87年の33.7%から90年には50.2%へと半数を超えました。

<24～29歳未婚>では60%を超えています。

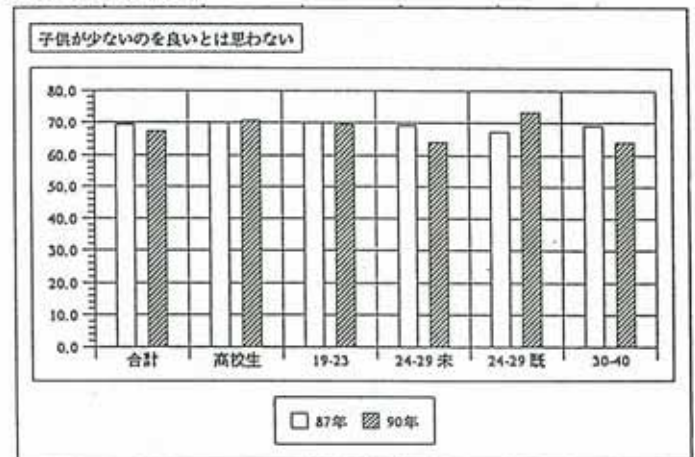
結婚する理由として<子ども>は確実に魅力を増しています。



§5 <子どもを少ない方がよい>とは思わない、70%

子どもを育てる上で、経済的負担は決して軽く見過ごしにはできません。「十分な教育を受けさせるために、子どもは少ない方がよい」という考えも、十分根拠があると思われまます。

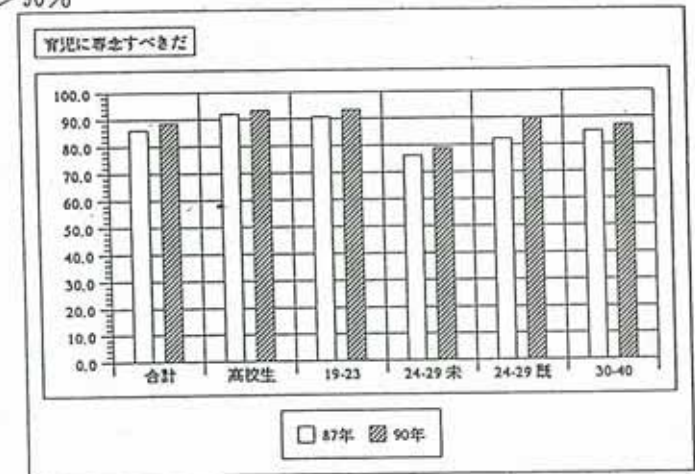
けれどもこの2回の調査では、「そうは思わない」と否定する人の方が多数派で、87年も90年も、ほぼ同じ70%近い高水準を示しています。少なくとも子どもの数を、教育費負担の観点から判断して、少人数を選択する考えは少数派（約30%）です。



§6 <小さい時は子育てに専念を>90%

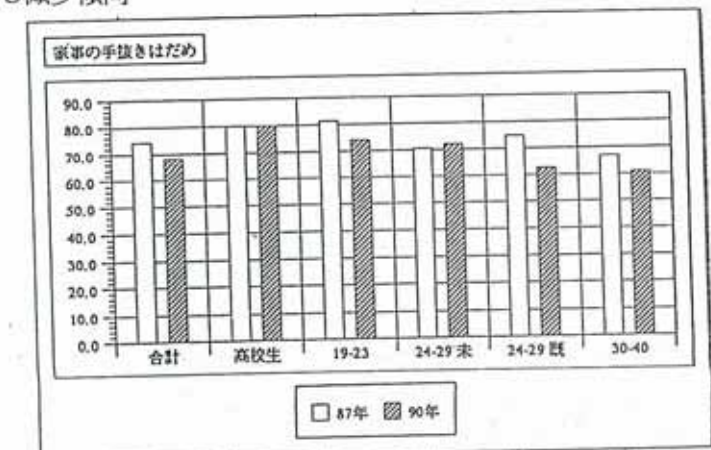
「子どもが小さい時には母親は子育てに専念すべきである」という考えは、80%から90%の非常に高い支持を集め、この3年間でそれが高まる傾向にさえあります。

これらのデータからは、「結婚」や「出産」に対し、適齢の女性に拒絶反応があるとか、また拒否の姿勢が広がる傾向にある、とは言い切れません。



§7 <家事の手抜きはだめ>70%、しかし減少傾向

さて仕事に出る場合の心構えとして、「手抜きしてまで仕事に出るべきでない」という考えは、合計で70%前後の高い支持がありますが、傾向としては減り気味である、ということが大変興味をひきます。

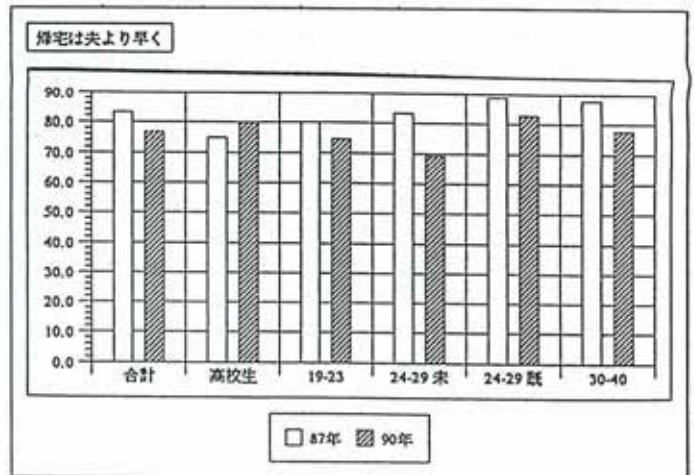


§ 8 <夫より早く帰宅>すべき、実に80%

また「夫より早く帰宅するのが好ましい」という考えには、80%程度の高い支持があります。

しかしこれもこの3年間に、減少の傾向が現われていると言えそうです。

つまり家事や育児をいい加減にしない、女性のまじめで几帳面な態度が見られるのですが、一方で、そうではありながらそれが徐々に衰退の方向にあることが窺われます。

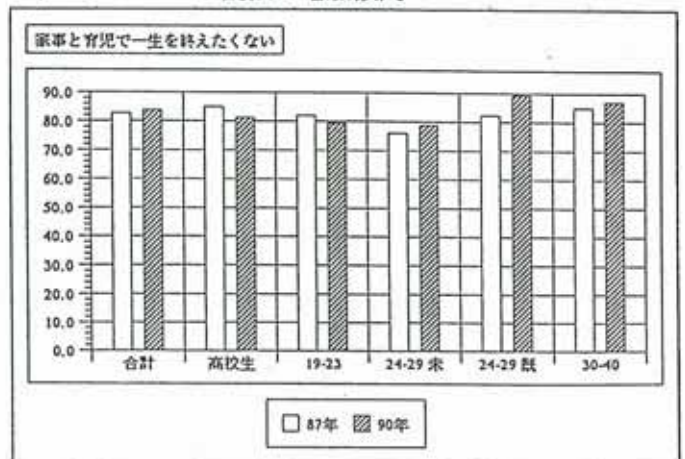


ところで職業とのかかわりに目を転じると、たいへん明白な傾向が指摘できます。

§ 9 <家事と育児で一生を終えたくない> 8割強で増加傾向

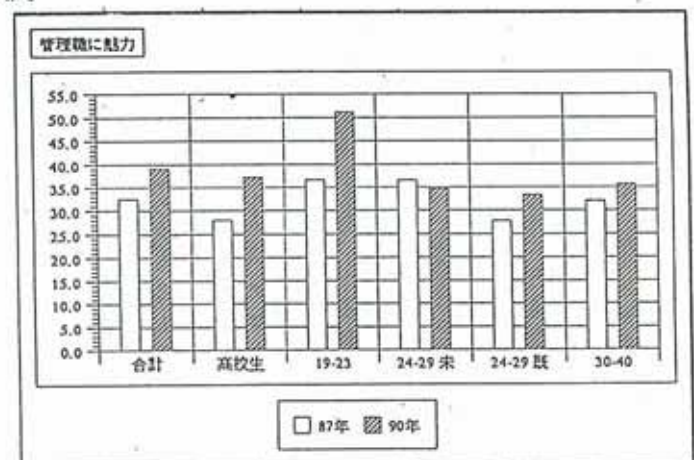
「家事と育児で一生を終えたくない」とする人は、実に80%以上の高率を占めます。

<高校生>と<19~23歳>の若年では3年前より減っているのですが、24歳以上のグループでは、87年から90年にかけて増加の傾向にあります。



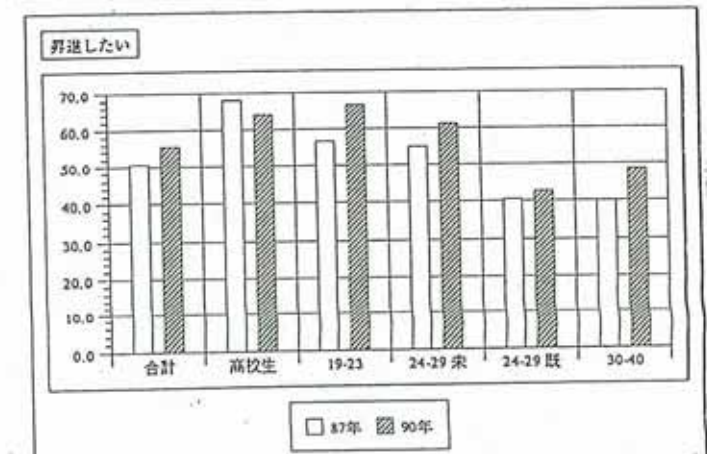
§ 10 <管理職に魅力あり> 30%で増加の傾向

そして職に就いたら「管理職や責任者の仕事に魅力を感じる」人が、30%強ではありますが存在しており、しかも明らかにどの年齢グループとも増加の傾向を示しています。



§ 11 <昇進したい> 50%

更に、「仕事をする以上は昇進したい」とする人が、これまたおおむねどの年齢グループとも増加傾向を示しており、<高校生><19~23歳>と<24~29歳未婚>では90年に60%をクリアし、<24~29歳既婚>と<30~40歳>でも、半数に迫りつつあります。



家事と育児で一生を終えたくないという人たちが、すべて職業を持つとは限りません。

けれどもカルチャー教室やグループ活動、またボランティア活動などいろいろな社会参加のなかで、「**耳に京（きょう）尤（ゆ）く**」ことは最も重要なケースの一つです。

管理職や責任者の仕事に魅力を感じ、仕事をするからには昇進したいと考える人がこんなに増加しつつあるということと、一方で家事や育児については、手抜きを許

せないということは、その両立がいかに難題であるかを示しています。

そしてその重い負担が生じるような状態はできるだけ避けようとするのは、いたって合理的な態度でありましょう。

とすれば「出生率の異常低下」は、客観的にみれば、十分予測できることであつたし、このままでは、今後とも改善される見通しはないと言えます。

★ポーラ文化研究所「年齢別に見た女性の意識と行動調査」調査概要

▼調査地域 東京駅を起点に半径30km以内の首都圏

▼調査対象

1987年		1990年	
16-18歳	100人	高校生	75人
19-23歳	150人	19-24歳	150人
24-29歳未婚	71人	25-29歳未婚	75人
24-29歳既婚	79人	25-29歳既婚	75人
30-40歳	200人	30-39歳	250人
41-49歳	100人	40-49歳	200人
50-65歳	100人	50-65歳	175人
合計	800人	合計	1000人

以上のうち、<16-18歳>～<30-40歳>と<高校生>～<30-39歳>のデータを使用した。

▼調査方法

戸別訪問面接聴取、および一部留置法併用

▼調査期間

1987年8月29日～9月15日

1990年9月14日～10月1日

データ 87年90年対照 (1987年→1990年比較)

★人の幸福は結婚にある

	87	はい	はい	90
合計	20.3		19.5	合計
高校生	16.0		16.0	高校生
19～23	16.7		24.0	19～24
24～29未	18.3		17.3	25～29未
24～29既	26.6		13.3	25～29既
30～40計	23.5		16.8	30～39計

★人は結婚してはじめて一人前になる

	87	はい	はい	90
合計	25.2		30.1	合計
高校生	5.0		16.0	高校生
19～23	16.0		18.0	19～24
24～29未	22.5		40.0	25～29未
24～29既	35.4		36.0	25～29既
30～40計	39.0		36.8	30～39計

★女性はなるべく20代で結婚した方がよい

	87	肯定計	肯定計	90
合計	74.0		70.9	合計
高校生	83.0		77.3	高校生
19～23	76.0		78.0	19～24
24～29未	71.8		72.0	25～29未
24～29既	82.3		77.3	25～29既
30～40計	65.5		62.4	30～39計

★女性が結婚を望む理由 (複数回答)

	87	子供	子供	90
合計	33.7		50.2	合計
高校生	27.0		44.0	高校生
19～23計	37.3		53.3	19～24
24～29未	38.0		61.3	25～29未
24～29既	35.4		49.3	25～29既
30～40計	32.0		47.2	30～39計

★十分な教育を受けさせるために、子供は少ない方がよい

	87	肯定計	肯定計	90
合計	30.8		32.8	合計
高校生	30.0		29.3	高校生
19～23	30.0		30.7	19～24
24～29未	31.0		36.0	25～29未
24～29既	32.9		26.7	25～29既
30～40計	31.0		36.0	30～39計

	87	否定計	否定計	90
合計	69.2		67.2	合計
高校生	70.0		70.7	高校生
19～23	70.0		69.3	19～24
24～29未	69.0		64.0	25～29未
24～29既	67.1		73.3	25～29既
30～40計	69.0		64.0	30～39計

★子供が小さい時には、母親は子育てに専念すべきである

	87	肯定計	肯定計	90
合計	86.2	88.6	合計	
高校生	92.0	93.3	高校生	
19～23	90.7	93.3	19～24	
24～29未	76.1	78.7	25～29未	
24～29既	82.3	89.3	25～29既	
30～40計	85.0	87.2	30～39計	

★家事を手抜きしてまで仕事にできるべきではない

	87	肯定計	肯定計	90
合計	74.2	68.0	合計	
高校生	80.0	80.0	高校生	
19～23	81.3	74.0	19～24	
24～29未	70.4	72.0	25～29未	
24～29既	74.7	62.7	25～29既	
30～40計	67.0	61.2	30～39計	

★仕事に就いていても、夫より早く帰宅するのが好ましい

	87	肯定計	肯定計	90
合計	83.2	76.8	合計	
高校生	75.0	80.0	高校生	
19～23	80.0	74.7	19～24	
24～29未	83.1	69.3	25～29未	
24～29既	88.6	82.7	25～29既	
30～40計	87.5	77.6	30～39計	

★子育てと家事とで一生を終えたくない

	87	肯定計	肯定計	90
合計	82.8	83.8	合計	
高校生	85.0	81.3	高校生	
19～23	82.0	79.3	19～24	
24～29未	76.1	78.7	25～29未	
24～29既	82.3	89.3	25～29既	
30～40計	85.0	87.2	30～39計	

★管理職や責任者の仕事に魅力を感じる

	87	肯定計	肯定計	90
合計	32.5	39.2	合計	
高校生	28.0	37.3	高校生	
19～23	36.7	51.3	19～24	
24～29未	36.6	34.7	25～29未	
24～29既	27.8	33.3	25～29既	
30～40計	32.0	35.6	30～39計	

★仕事をする以上は昇進したい

	87	肯定計	肯定計	90
合計	50.7	55.5	合計	
高校生	68.0	64.0	高校生	
19～23	56.7	66.7	19～24	
24～29未	54.9	61.3	25～29未	
24～29既	40.5	42.7	25～29既	
30～40計	40.0	48.4	30～39計	